

# めだかの学校だより

平成 26 年 2 月 1 日  
第 83 号  
学舎：周智郡森町一宮  
「一宮総合センター」  
事務局：静岡県磐田市  
家田 529-20  
TEL: 0539-62-6691

## 校長訓話

第八十三回 校長 牧野 久子

なにげなく見ていたテレビ、除夜の鐘とともにいきなり北九州市門司区の映像が、街路樹にイルミネーションが飾られ、その向こうに美しい花火が次々と上がり、バナナの叩き売りが賑やかに放映されていた。私の子供の頃過ごしたなつかしい門司港の風景でした。そして、忘れられない思い出。それは、門司・小倉・戸畑・若松の五つの旧市が、百万市民政令都市として合併、九州の北にあるからそのままの名がいいと、あの松本清張氏の一言で福岡県北九州市が誕生しました。

その第一回成人式を迎えた私は、旧門司市を代表し地元の成人式を終え、迎えのタクシーで会場となる小倉ホテルでのレセプションに望みました。(旧五市から男女各二名参加) 大広間の大きな円卓を囲み、華やかな雰囲気の中で、各方面の方々から祝福を受け、祝杯を、フランス料理に舌づ

つみ、記念品や、選挙管理委員会会員に登録、期待される大人への第一歩でした。当時はラジオ中心でマイクとテープレコーダー録音、新聞記者は速記とカメラ、テレビは局へ行かなければダメ、そんな時代でした。帰りのタクシーの中で、サプライズが、市職員の粋な計らいで、ある所へ。そこには友人や仲間が待っていてくれたのです。行動をとりにした三人と、ずっと付きそってくれた青少年育成連絡協議会の市職員の方も誘い込んで、再度飲み物、オードブルを前に乾杯!! 歌やダンス、おしゃべりで盛り上がり、友人や仲間達の気持ち、心遣いがうれしくて、着物姿の私にそつとかわっぽう着を着せてくれた店主の心遣いに感謝と共に忘れえぬ日となりました。

さらにもうひとつ、真面目な話も。めだかと一緒? 異文化、異業種の若者達の中で、生涯学習講座の青年版です。一般常識、知識、趣味、料理、交流会等一年間のスケジュールを作成し、市へ提出することに、補助や講師を依頼するためです。三役の一

人を選ばれた私は、生まれて二〇年目の充実した盛りたくさんの青春時代の始まりでした。この時の経験が私にとって、生活の中で太い柱になっているような気がします。二十年目を迎えためだかの学校も、ゆるぎのない絆が継続されることでしょうか。

ところで現在、門司港駅、周辺は大正ロマンを思わせるレトロな観光地になっていました。駅舎の2階や赤レンガのビルは私が仕事でよく訪れた場所でした。なんともいえない感情が湧いてきました。年のせいでしょうか。皆さんはご存じでしょうか、今、北九州市はますますグローバル化して日本のお手本になっているようです。地熱を利用した発電。一つの団地全体で利用していること。生活のインフラ、環境問題、特に水、海外へ市が中心となってどんどん広がっていること、150ヶ国の研修生が訪れているそうです。活気のある町に住む人間が生き生きしていますよね。楽しみを見つけて体を動かしましょう。



## めだかの学校伝言板

——第83回めだかの学校を開校するので出席しなさい。

校長/牧野久子

教頭/草地博昭

用務員/本島慎一郎

給食係/鈴木祐之・伊藤英雄・石野省三・加藤ひとみ  
西川裕子・牧野久子・池田タキ江・今村純子  
山中幸子・渡辺三ツ子(チーフ)

※お手伝いできる人はぜひ早めにお出かけを!

<学舎> 静岡県周智郡森町一宮「一宮総合センター」

TEL: 0538-89-7730(開校日のみ)

開校日/平成26年3月7日(金) 6:20PMより  
受付/虫生時彦・中村やす代・大場敬子・斉藤昭(後見人)  
21期通年テーマ:『界を超えて、ふるさとに学ぶ』  
今回のテーマ:『いにしへの術と食と知恵を今に生かす』

<時間割>

- 1時間目 理科 鈴木計芳 先生  
「山のお茶、渋川茶へのこだわりとは?」
- 2時間目 家庭科 西島朋子 先生  
「味見わたりの料理人?」
- 3時間目 社会科 玉置洋一 先生  
「信濃の里の守り人」
- 給食の時間 ~3月3日はひな祭り「ひな御膳かな?」~  
10:00 開校

# めだかたち

## ■そつとのぞきに行ってきました

先日、県立浜北森林公園を1時間半ほどウォークした後、浜松市天竜区二俣町のNPO法人「元氣里山」が運営する『又水』へ、妻明美さんが行ってきました。私は二俣の町並みはよく分らなかったが、明美さんは生まれ育ったところ、昔の町並みの一角には『又(しや)水』の看板が建っていました。

寒かった日で、人通りも少なく淋し気でしたが、『こんにちは』と中に入ると、本島真弓メダカが「ハイイ！」と出てきました。昔のお店の住民のように。お店には、天竜や春野や佐久間など北遠の加工品や農産物が台の上に並んでいました。明美さんは、地元の人で作った『大豆や小豆が安くて美味しい』と、時々来ているようです。そこへ理事長の本島慎一郎メダカが戻ってきました。古い木造三階建てを案内してくれました。今風の人たちにとっては使い勝手の悪い建物かも知れませんが、太い木をふんだんに使った、この時代が偲ばれるものです。部屋の数も多く、地元の手作り品などが展示即売されていました。3階では、二間通しにしてコンサートや講座、会合などを開いているとのことでした。ちょうど行った日は、風呂敷の折り方や利用方法などの講習会の先生が見えていました。

本島メダカといろいろと雑談をしましたが、郊外への大型店の進出、少子高齢化、核家族、女性の就労、こうした社会生活の変化に空き店舗が目立った商店街への集

客はなかなか容易ではない。家賃が3万円とはいえ、独立採算制は至難の業で、行政の助成が無い限り維持は難しい。やる気のある人が地域の人を巻き込んで、共通認識しつつ共働する必要性を改めて感じさせて頂いたひとときでした。ここでもがんばるめだかがいました。(バラメダカ)

## ■柗里の似合う町並みづくり

### 遠州横須賀街道

掛川市の町並み景観重点地区に、遠州横須賀街道が認定されました。遠州横須賀といえは「三熊野神社大祭」、江戸天下祭の流れを汲む13台の柗里(山車)が、城下の町並みを曳きまわされます。年にたった3日間の祭りですが、その祭りの持つ意味は奥深く、良好な人間関係や地域の団結、地域愛の醸成などに欠かせないものとなっています。また祭りを演出する町並みとして、ちっちゃな文化展の舞台として風情ある佇まいを残してゆかなければなりません。町並みの保存継承を模索し始めては25年以上、ようやく一つの形ができました。重点地区の指定は目的ではなくあくまで手段、これから本当の活動が始まります。

来たる4月4(金)と6日(日)、遠州路に春を呼ぶ「三熊野神社大祭」が行われます。「遠州の祭りは横須賀で始まり、森で終わる」と呼ばれる「祭りどころ」、満開の桜のもと、三社祭礼囃子に浮かれ腰、おかめひよっとと踊りおかしく、13台の柗里の曳きまわし、祭り絵巻を演出するのは遠州横須賀城下町、お祭りとお楽しみをお楽しみください。鈴木武史めだか生徒

## ■300年の伝統を誇る民俗芸能『南信州今田人形浄瑠璃芝居』公演

飯田市にある今田人形座の人形劇公演

が、3月2日(日)浜松市のK・MIX(静岡エフエム放送)のSPACE1Xで、午後2時から上演される。入場料は大人・子供共500円。上演外題は、寿式三番叟・戒舞・傾城阿波鳴門です。

今田人形座は1704年(宝永元年)に今田(現在の飯田市瀬江)で人形座が始まり、地元住民の人形劇に対する愛着が300年の伝統を支えています。国内公演は勿論、海外でも公演をしています。現在座員は20名、100を超えかしたらを有している。秋の大宮八幡宮例大祭ではロクソク公演、本公演を行う他、夏の「飯田人形劇フェスタ」にも出演しています。今回の主催は、みらいネット浜松(053・452・3281)お問い合わせは奥村さん、または水村春江メダカまで!

## ■てんてんゴーの「ひなまつり」

浜松市北区引佐町のてんてんゴーしが川で2月15日(土)と3月9日(日)まで、ひな人形の「ひなまつり」が行われています。「掛け軸」のおひな様、江戸時代のおひな様など様々なひな人形が所狭しと飾られています。

2月16日(日)10時からバルンアートサーピス、13時から開会式、続いてマジックショー、3月1日(土)は11時から大正琴演奏、2日(日)は11時からマジックショーなどのイベントがある。予約ですが3月末日まで一人前2500円の「しし鍋」も提供しています。

てんてんゴーしが川はNPO法人大好き浜川が運営。このNPO法人、初代理事長はめだかの学校言い出しっぺの一人で、故人の伊藤茂男メダカ、2代目は山本光男メダカが、予約、お問い合わせは、電話053・545・0452へ。

## ■獅子ヶ鼻公園桜まつり

磐田市北部の山あいの、獅子ヶ鼻公園下野外ステーションでは、4月6日(日)、午前10時から午後3時まで、「獅子ヶ鼻桜まつり」が行われます。午前10時開会式、10時20分からオカリナ演奏、太極拳、健康表現体操、よさこいそうらん、4628楽団などのイベントがあります。磐田市のゆるキャラの「しっぺい」も応援に。地元の鈴木正士メダカ、神原幸雄メダカからも実行委員で関わっています。天竜浜名湖鉄道敷地駅で降りて、敷地川沿いに咲き並ぶ桜を楽しみながらウォークするのもいいですよ。2月9日には地区の有志が、樹木医の指導を受けながら桜の手入れをしました。

問い合わせは、豊岡東公民館0539・62・6669または磐田市観光協会0538・33・1222へ。

※3月下旬と4月上旬にかけて各地で桜まつりが開かれています。それぞれの地域の観光協会にお問い合わせるといいですよ。丁寧に教えてくれます。



※今年もたくさんの方々が参加をいただきます。その中から何通か省略して送ります。

●藤枝市の小島良之メダカ。13年ぶりのダライ・ラマ法王との出会いと日本平での祈りから今回のメッセージは「ダライ・ラマ14世」の言葉から選びました。と。命あるすべての生き物は、幸せと苦しみの中で生きています。この世のすべての苦しみの源は、自分を中心にして考えるところにあります。地位や立場の囚人と、ならないでください。全ての生きとし生けるものに対し、自らが生かされていることを、心から感謝し、恩返しをしなければなりません。

●静岡市の小野田全宏元メダカ。NPO法人静岡県ポランティア協会の専務理事。平成23年4月8日に開設した遠野災害ボランティアセンター「遠野まごころ寮」は3月9日に閉所し、5月25日に釜石市と大槌町に「三陸ふじのくに絆ハウス」として移設開所し、被災地の復興へ取り組みを継続させていく。今年には『添』の文字を自分の言葉としてひとつひとつ大切に寄り添っていく、と。

●磐田市の小林佳弘メダカ。地域文化情報誌「NEOばんぶきん」も創刊三十六年、通巻400号を数えた、と。今年には新年早々、東海道の脇往還「姫街道」を題材にした「姫街道『本坂道』今昔物語」と題した冊子を出版する。昨年10月からスタートした「カボチャ食堂」と名付けたふるさとの勉強会も楽しみと。何人かのメダカちゃんも飲み(?)に行っているようです。

●遠く北海道滝川市の「めだかの学校」に出席した「い」の水口正之さん。たくさんのモンゴル人たちと関わり、その功績から昨年6月にはモンゴル人文大学の名誉教授に。横綱白鵬関の北海道の田んぼづくりのお手伝いも。「地球に笑顔と希望の虹をかけよう」と。北海道で「めだかの学校」の林間学校をしよう、と。モンゴルの人たちと交流しあって、まさに笑顔と希望の虹ですね。

●愛知県・長久手市の横田浩臣元メダカ。仏像をたどる旅もウズベキスタンからタリム盆地周回トルファン、敦煌、炳靈寺、麦積山、長安、五代山、雲岡と巡り、大陸の東の里で韓半島へ昨年の秋に訪れた。ツアーでは行けない瑞山の摩崖仏を30年前の留学生の案内で訪ねた。西暦600年頃に彫られ、雲崗石窟の影響を受け、雲岡から130年かけて韓半島へ到達。その頃の中国は隋。高句麗が隋に対処するために、

この摩崖仏は隋の方向に向けて造営された。日本では聖徳太子が593年に四天王寺を建立し、高句麗の僧を師として政治を行っていた。歴史はどのように繋がっているのだろうか。興味はつきない、と。

●習志野市の市原実メダカ。今年午(うま)年。全国の地名の中で「馬」と付く地名を探し出し、その中で比較的珍しいものを選んでみました。いや、小さな文字でびっしり。ほんの一例を、ご紹介。北海道美瑛町笑馬牛、青森市馬屋尻、石巻市馬鞍、龍ヶ崎市馴馬町、東京都中央区日本橋馬喰町、新潟市東区猿ヶ馬町、磐田市太郎馬新田、静岡市清水区馬走、馬と人間との営みの深さが偲ばれます。

●取手市のNPO法人日本つみくさ研究会理事長の篠原準八メダカ。昨年は冬の大雪、夏の猛暑と激変の中で資格認定つみくさ教室山野草サミットなど、NPO法人もなんとか息をついている。今年には春までに新刊書「つみくさ薬効美味料理(仮称)」を出版予定、と。

●北海道オホーツクの船木耕二さん。「感謝無尽」と。この言葉を使い始めて何年になるだろうか、私の名刺や年末状には不可欠のもの。社会教育の大先輩からいただいた言葉。思いあがった私に「日々感謝の気持ちを忘れるべからず」とも。まさに船木さんの日頃が見えますね。

●静岡市の鈴木芳徳メダカ。静岡市の科学館に勤務。訪ねて、ためして、見つける、ひとつひとつの時間をゆたかに。科学も自然も、普及の企画にはまず自分が楽しむことかと、ささやかな探検を続けている、と。

●静岡市清水区の花井孝メダカ。富士山「白扇倒東海天」石川丈山。富士山は世界遺産に登録されて日本の顔。清水から見る富士山はまさに字の如し。吟詠するもよし。近頃、未来(自分の)見えてきた、と。花

井さんの未来ってどんな未来なのかなあ、とは影の声。

●浜松市・シユークリエイトの加藤修一元メダカ。今年行ってみよう、山梨市矢野のほつたらかし温泉、山の上。宣伝もサービスマなし。勝手に楽しんでいってという大きな露天風呂。富士と眼下に甲府の町が広がる。雲海ならベスト。山梨県早川町の赤沢宿。以前からよく夢に出てくる行者宿。ここへ行くと鎌倉時代にタイムスリップするかも、だって。昨年絵本も出版しました、と。

●愛知県東栄町の伊藤静男・公子メダカ。和太鼓集団志多ら全国ツアー浜松公演を6月22日浜松アクロスティーで行なう。ぜひ見に来てください、と。

●磐田市の寺田幸宏メダカ。33歳で始めたライフワークの『ミツパチ』は、今年で44年目。今、蜂針療法が注目されている。蜜蜂の針でチクチクやるんだって。超難度の技術ですよ。知ってました?。蜜蜂の生態はヒトが驚くような高度に進化したものであり、全ての生物の命を支える働きをしている。『食物連鎖』から見ることでできる、と。

●浜松市の佐野文子メダカ。自称「平成のサザエさん」。おしゃべり好きで、おちよこちよいで、世話好きで。一時体調を崩していたが、「夫婦共々、忙しく過ごしている」と久しぶりの手紙。嬉しいね。

●浜松市の加藤ひとみメダカ。元氣よく、楽しく。前向きな1年にしたい、と心に誓うのですが、なかなか思うようにはいかない。メダカのようにスイスイ泳いでいきたい、だって。今年にはジューピロハーフマラソンにリベンジ。完走しようね。

●《新人生紹介》

●磐田市の虫生時彦メダカ。パソコン塾を

経営・磐田市議。東海道見付宿のまちづくりに関わっている。磐田検定委員会代表として、ふるさとを歩こう。「第二回磐田歴史検定」を企画。問題は出来上がり、4月30日応募締切りで最終段階に入っている。近日中には完成。配布できる。

●静岡市の大場みや子メダカ。実家は森町一宮。榊原淑友メダカと同級生。静岡市で食を通じた健康づくりの仕事をしている。森町の食材を大切にしながら食べ物の大切さを伝えていきたい、と。給食係にびつたりの人ですね。

●磐田市の川崎和子メダカ。介護福祉士の資格を持つ磐田市議。女性の立場から高齢者や若い奥さん方に寄り添った活動をしている。

●磐田市の野崎正蔵メダカ。磐田市議から県議補選で県議に。「めだかの学校だより」や草地、芦川メダカからの入校を見て興味をもって入校。学校の雰囲気につくりに、と。

■計報

●磐田市の佐野蓉子元メダカ。平成25年11月15日死去。享年73歳。佐野メダカは、豊岡村職員時代、県の食生活指導員だった今村純子メダカと一緒に、農村における食生活の改善に取り組む。「食生活を改善するためには自らが生産加工が必要だ」と退職し、自宅庭に加工所「しきじ旬の郷」をつくり、こだわりの食材づくりに専念。遠鉄百貨店や東京の百貨店にも出している。大きく豊岡のめだか生が関わりにあった「とよおか探れたて元氣村」の役員としても食材の高質化に尽力。「冥福を祈ります」

×××× ××××

もつともつと掲載したいのですが、紙面の都合で今回はこれまで。

※めだかの春秋はお休みさせていただきます。

# トピックス

## ■ハッピーニューイヤール

### おもつき会

正月三日午前10時から午後1時ごろまで、JR磐田駅で「ハッピーニューイヤールおもつき会」が、磐田市観光協会主催で行われた。

今年も天気が良かったこともあって、去年の3倍以上の大賑わい。もちつきを準備している間に、藤田潤吉メダカ座長の浜松花蝶ちゃんのメンバー11人がJR磐田駅前を、ちんちんどん、行ったり来たり...。11時ごろ1ウス目のおもちがつき上がる。長〜い列。ゆるキャラ9位の「しっぺい」と、とよお探れたて「元氣村」の『元氣君』も集まった人たちがふれあって大盛り上がり。2ウス目は、「つきたい」という子どもたちと一緒にベッタタンコ。杵の方が大きい子どももいて笑いを誘う。「しっぺい」と「元氣君」もつきましたよ。甘酒は11時ごろ、おもちが5ウスついたのに12時ごろには終わってしまっった。

この「モチつき会」。私が磐田市立豊岡東公民館長の時、「公民館まつり」の時でもいつもやってきていたが、館長を退職することになり、その送別会で深澤明男メダカが「磐田市観光協会の事務局長になったバラさんが行く磐田駅前で行ってやろう」と、「元氣村」の理事会で決めてくれて実現。観光協会には何もないので、テントから食材まで全て元氣村の人たちがやってくれた。その話を聞いた藤田潤吉、久枝メダカ。「私たちちんちんどんで応援する！」。そんなメダカの仲間たちと、その周りにい

る温かな心の人たち、市役所の職員のみなさんの協力でできたものです。感謝感謝。『来年もやろう!!』だって。(バラめだか)

### ■事務局だより

立春を過ぎたというのに寒い。先頃の暖かさが嘘のよう。まさに三寒四温の三寒だねと交に納得してしまう能天気さ。ラジオからロシア・ソチでの冬季オリンピックの日本選手の情報が流れてくる。

さて、第82回めだかの学校は、平成25年12月6日、校長は藤枝市の横山浩史、教頭は磐田市の大島たまよ、用務員は磐田市の山下安範。横山校長、得意の桐細工の箱を各席に並べる。宝くじが当たる箱、線香入れ、印鑑入れなどの小箱数種類、生徒へのプレゼントだつて。又、机の上には池田タキ江メダカのクリスマスツリーの飾りがある。12月の授業らしい。一時間目は社会、伊藤静男先生「てほへ」と東栄お祭り街道。「てほへ」はお祭りのおはやし言葉。NPO法人理事長の志多良太鼓の地域と全国ツアーの活動を語る。二時間目は国語、水野忠義先生「粋な言い回しで語る。『報徳の精神』。体調悪く欠席のため、大島たまよ教頭が地理「考古学からみた磐田市」。古墳が多数存在する磐田市。古い建物や構造物などを調査するのが考古学。古い自然の有り様を調査するのは考古学とは違う、と。三時間目は地理、杉谷知也先生、「雲林院より、海を超えて」。子供の頃のお百姓仕事の手伝いや地域で活動している映画祭などのことを話す。校長訓話では、サッカー王国の藤枝で今もシニアサッカークラブで全国大会に出場して優勝したことや、桐タンス屋での桐づくりのことを語る。

お待ち兼ねの給食の時間。全員で机や椅子を並び変えて食卓をつくる。今回の給食

は、海老芋がいっぱい入って「しし鍋料理」。身体がポカポカと温まってくる。給食係のみなさんのおかげ、感謝を忘れずに。

### ■私語飲食全禁止の次回3役発表

第83回めだかの学校は3月7日、校長牧野久子、教頭草地博昭、用務員本島慎一郎。校長、用務員ともに校長経験者。登校2回目の若い教頭を双方で支える構図。これも変則めだか流、遊び心。現3役と次回3役、握手して引き継ぎをする。次回の給食係を決めたあと、鈴木一記メダカの好意で、引佐町久留女木の棚田米3キロ3袋をジャンケンで勝った藤田久枝メダカ、本島慎一郎メダカ、今村純子メダカにプレゼントされる。最後は机、椅子を後ろに寄せて、いつものように大きな輪をつくり、「今日の日はさようなら」を歌いつつ、一人づつ握手しながら閉校。3ヶ月後、また会いましょう!

「第83回めだかの学校」の職員会議を1月15日(水)午後7時から学舎の一宮総合センターで開く。草地博昭教頭は私用で欠席。牧野久子校長、本島慎一郎用務員、14人の職員が出席して次回のテーマと授業内容を話し合う。牧野校長のあいさつで「前の引佐町の学舎は、更地になった」と報告。桜の頃一度見に行こう!と。さて授業は、一時間目、美術「和の森のマイスター」が語る「藤田吉泰先生(浜松)。二時間目、家庭科「味見わたりの料理人?」西島朋子先生(静岡)。三時間目、社会科「信濃の里の守り人」玉置洋一先生(飯田市)で決まる。簡単に決まった訳ではありませんよ、「想像を!。オマケに缶のお茶の熱いこと、熱いこと、お弁当を食べ終わっても飲めない。それから数日後、先生の藤田吉泰メダカから電話。「友人の結婚式で出席できない」。石野省三メダカと相談して、一時間目、理科「山のお茶、渋川茶へのこだわり

とは?」鈴木計芳先生(浜松)に決める。

■常態化した発行遅れ、「ごめんなさい」。いろいろとご迷惑をおかけしています。伊藤英雄メダカ、鈴木武史メダカ、石野省三メダカ、本島慎一郎メダカ、纏めの間瀬亮太メダカ、「ご協力ありがとうございます。発送などのお手伝い榊原明美さん感謝!」。

■第21期は、25年9月1日から26年8月31日までです。継続手続きがまだなされていない生徒は、名簿からはずれ自主退学となりました。随時再入学はできますので、「ご連絡ください。入学を希望される方がいましたら、事務局までご連絡ください。資料と申込書を送ります。

■めだかの学校だよりの原稿を! 次回の発行は、5月1日予定。締切りは、4月20日です。ぜひご連絡を! 郵便かFAXで。メールの方は、[abuchi-trd@vtr.nc.ne.jp](mailto:abuchi-trd@vtr.nc.ne.jp) 間瀬亮太090・5009・0986です。(メールの方は封付の関係もあるので「報告」)

■めだかの学校の事務局 〒438-0105 静岡県磐田市家田5-29番地20 榊原幸雄方 TEL 0539-62-6691 (FAX同じ) ※学舎「一宮総合センター」周智郡森町一宮3150。電話 0538-89-7730 開校日の午後4時以降のみ使用可。携帯 080-1612-9130

